

## 中山間地域のモビリティ課題と解決策 —京都市北区中川学区の事例から—

本稿は、京都市北区中川学区の事例から、中山間地域における住民のモビリティ（移動性、移動可能性）に関連する課題を把握し、その解決方策の提案および提言を導出することが目的である。人口減少と高齢化の進むわが国では、特に中山間地域において、高齢者をめぐる生活課題が多様化・複雑化している。なかでも、バスやタクシーなどの公共交通サービスが希薄な地域では、高齢者にとっては買い物や病院に行くことさえ容易なことではない。

本稿では、自家用車依存を中山間地域のモビリティ課題として位置付け、その現状と解決策を京都市北区中川学区の事例から考察している。中川学区は政令指定都市である京都市に所在はしているものの、市中心部までの公共交通のアクセスはバスのみに限られており、学区内に交通不便地域が点在していることが挙げられる。こうした地域において、高齢者等の地域住民が移動しやすい交通環境の構築のために、どのような実践や政策が求められていくのか、課題把握を踏まえて考察している。

具体的な提案としては、①ラストマイル輸送の取り組み、②北山三学区の連携とシェアリングカーという2点である。中川学区では、バス停までの距離が遠いために自家用車で移動に頼らざるを得ない現状があるが、バスと自家用車の併用などをすでに実施しているため、近距離輸送などによって「ちょっとそこまで」の生活ニーズに対応できる可能性を提示している。また、中川学区と近隣二学区との広域連携による拠点づくりやシェアリングカーの導入による学区間での住民の交流促進や、課題解決に向けた議論の場づくりについても提案している。